

自然災害と向き合おう

～まちを知り、災害を知って、何をすべきか考えよう～

平成28年8月5日（第3日目）

セミナー 内容

- ① 調査結果・斜面危険度評価
- ② 「崩れ」 DVD鑑賞
- 休憩
- ③ 防災ゲーム・クロスロードゲーム

NPO法人シビルまちづくりステーション

調査結果・斜面危険度評価

表一 急傾斜地崩壊危険個所の危険度判定基準

		【斜面番号；		
		作成日：平成 年 月 日		
大項目		小項目	点	数
	データ項目		点 数	
①斜面高(H) m	・斜面の高さ	$50 \leq H$	10	
		$30 \leq H < 50$	8	
		$10 \leq H < 30$	7	
		$H < 10$	3	
②斜面勾配(α)	・傾斜度	$59^\circ \leq \alpha$	7	
		$45^\circ \leq \alpha < 59^\circ$	4	
		$\alpha < 45^\circ$	1	
③オーバーハング	・横断形状	オーバーハングあり	4	
		オーバーハングなし	0	
④斜面の地盤	・地表面の状況	亀裂が発達・開口、転石・浮石が存在	10	
		亀裂・亀裂が発達した岩である	6	
		礫混じり土、砂質土	5	
		粘性土	1	
		亀裂・亀裂が発達していない岩である	0	
⑤表土の厚さ	・表土の厚さ	0.5m以上	3	
		0.5m未満	0	
⑥湧水	・湧水	有	2	
		無	0	
⑦落石・崩壊頻度	・崩壊履歴	新しい崩壊地がある	5	
		古い崩壊地がある	3	
		崩壊地は認められない	0	
合		計		
[出典：日本道路協会道路震災対策委員会、1986]				
		基準要素点		判定
		24点以上	a	
		14～23点	b	
		13点以下	c	
		斜面危険度		

表-1 (b) 地震時における斜面被害の相対的危険度ランク

計測震度 \ 基準要素点	13点以下	14~23点	24点以上
	6.0以上	A	A
5.5以上~6.0未満	B	A	A
5.0以上~5.5未満	C	B	A
4.5以上~5.0未満	C	C	B
4.5未満	C	C	C

<(相対的な)地震時危険度ランクA,B,C>の説明

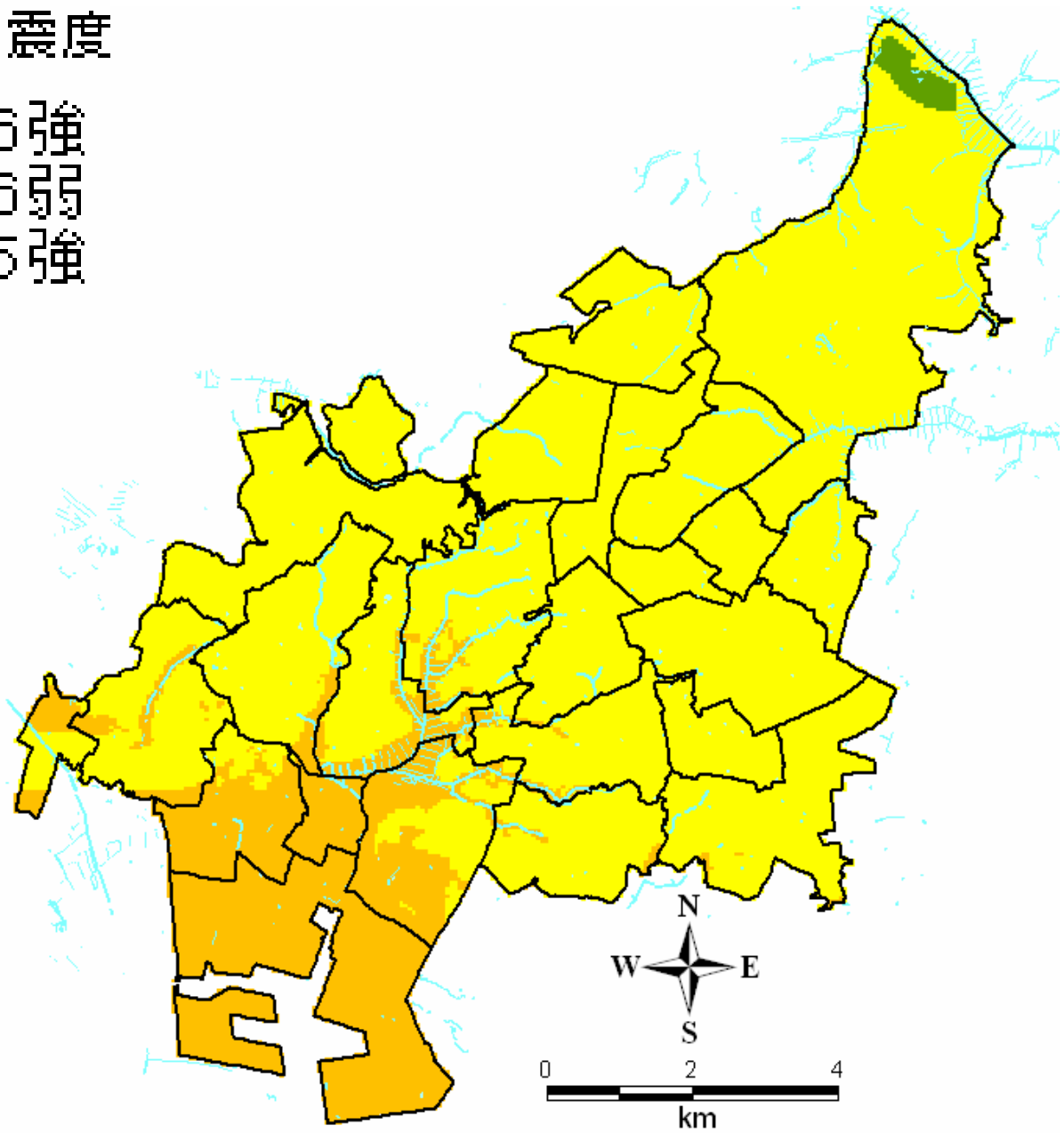
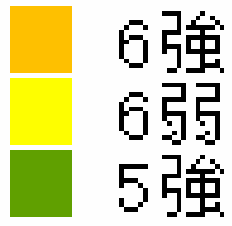
- ランクA:斜面被害の危険性が高い
- ランクB:斜面被害の危険性がやや高い
- ランクC:斜面被害の危険性が低い

<その他>

- 対策工が既成の場合は危険度ランクをCとする

- 地震危険性分布図（東京湾北部地震 $M7.3$ の場合）及び地区別危険度評価
- 防災カルテ参照

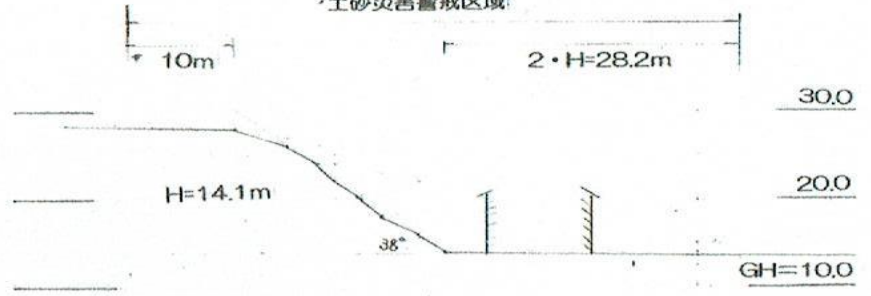
予測震度



飯山満町3丁目緑地

A - A' S=1/50

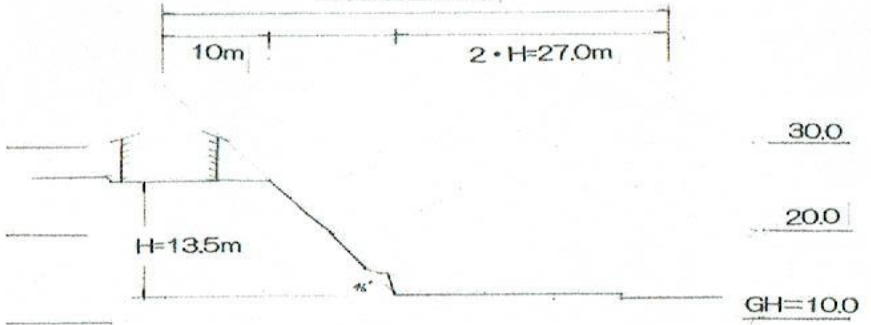
土砂災害警戒区域



I-0148

D - D' S=1/50

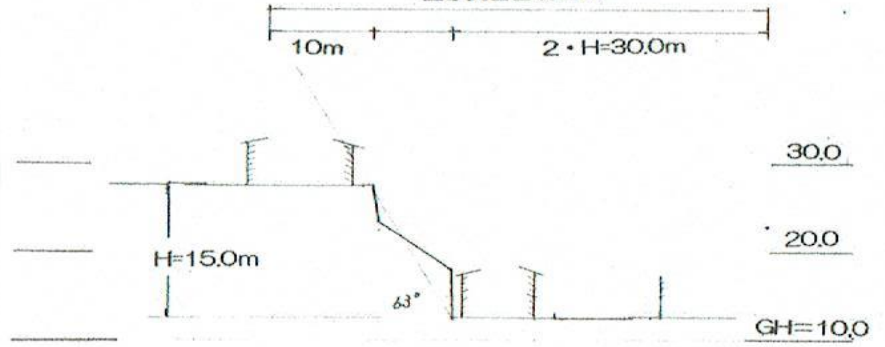
土砂災害警戒区域



I-1274

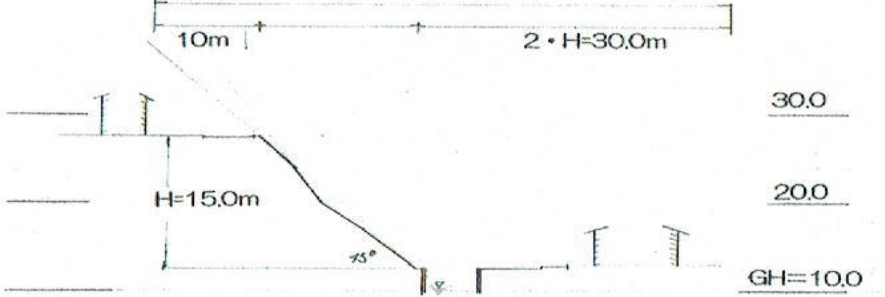
C - C' S=1/50

土砂災害警戒区域



B - B' S=1/50

土砂災害警戒区域



表一 急傾斜地崩壊危険個所の危険度判定基準

【斜面番号； 飯山満町3丁目緑地

作成日：平成 28年 7月 29日

大項目	小項目		点 数	
	データ項目			
①斜面高(H) m	・斜面の高さ	50 ≤ H	10	7
		30 ≤ H < 50	8	
		10 ≤ H < 30	7	
		H < 10	3	
②斜面勾配(α)	・傾斜度	59° ≤ α	7	1
		45° ≤ α < 59°	4	
		α < 45°	1	
③オーバーハング	・横断形状	オーバーハングあり	4	0
		オーバーハングなし	0	
④斜面の地盤	・地表面の状況	亀裂が発達・開口、転石・浮石が存在	10	1
		亀裂・亀裂が発達した岩である	6	
		礫混じり土、砂質土	5	
		粘性土	1	
		亀裂・亀裂が発達していない岩である	0	
⑤表土の厚さ	・表土の厚さ	0.5m以上	3	0
		0.5m未満	0	
⑥湧水	・湧水	有	2	2
		無	0	
⑦落石・崩壊頻度	・崩壊履歴	新しい崩壊地がある	5	0
		古い崩壊地がある	3	
		崩壊地は認められない	0	
合 計			11	

[出典：日本道路協会道路震災対策委員会、1986]

斜面危険度	基準要素点		判定	
	24点以上	a		c
	14～23点	b		
	13点以下	c		

表一 急傾斜地崩壊危険個所の危険度判定基準

【斜面番号； I-1274

作成日：平成 28年 8月 29日

大項目	小項目		点 数	
	データ項目			
①斜面高(H) m	・斜面の高さ	50 ≤ H	10	7
		30 ≤ H < 50	8	
		10 ≤ H < 30	7	
		H < 10	3	
②斜面勾配(α)	・傾斜度	59° ≤ α	7	4
		45° ≤ α < 59°	4	
		α < 45°	1	
③オーバーハング	・横断形状	オーバーハングあり	4	0
		オーバーハングなし	0	
④斜面の地盤	・地表面の状況	亀裂が発達・開口、転石・浮石が存在	10	1
		亀裂・亀裂が発達した岩である	6	
		礫混じり土、砂質土	5	
		粘性土	1	
		亀裂・亀裂が発達していない岩である	0	
⑤表土の厚さ	・表土の厚さ	0.5m以上	3	0
		0.5m未満	0	
⑥湧水	・湧水	有	2	0
		無	0	
⑦落石・崩壊頻度	・崩壊履歴	新しい崩壊地がある	5	0
		古い崩壊地がある	3	
		崩壊地は認められない	0	
合 計			12	

[出典：日本道路協会道路震災対策委員会、1986]

斜面危険度	基準要素点		判定	
	24点以上	a		c
	14～23点	b		
	13点以下	c		

表一 急傾斜地崩壊危険個所の危険度判定基準

【斜面番号； I-0148

作成日：平成 28年 8月 29日

大項目	小項目		点 数	
	データ項目			
①斜面高(H) m	・斜面の高さ	50 ≤ H	10	7
		30 ≤ H < 50	8	
		10 ≤ H < 30	7	
		H < 10	3	
②斜面勾配(α)	・傾斜度	59° ≤ α	7	4
		45° ≤ α < 59°	4	
		α < 45°	1	
③オーバーハング	・横断形状	オーバーハングあり	4	0
		オーバーハングなし	0	
④斜面の地盤	・地表面の状況	亀裂が発達・開口、転石・浮石が存在	10	1
		亀裂・亀裂が発達した岩である	6	
		礫混じり土、砂質土	5	
		粘性土	1	
		亀裂・亀裂が発達していない岩である	0	
⑤表土の厚さ	・表土の厚さ	0.5m以上	3	0
		0.5m未満	0	
⑥湧水	・湧水	有	2	0
		無	0	
⑦落石・崩壊頻度	・崩壊履歴	新しい崩壊地がある	5	0
		古い崩壊地がある	3	
		崩壊地は認められない	0	
合 計			12	

[出典：日本道路協会道路震災対策委員会、1986]

斜面危険度	基準要素点		判定	
	24点以上	a		c
	14～23点	b		
	13点以下	c		

船橋市に分布する急傾斜地崩壊危険個所は、下総台地（標高30m前後）とこの台地を河川によって浸食し、形成された低地（標高10m程度）との間にほとんどが存在します。したがって、斜面の高さは10～20mが大部分であります。斜面の勾配は今回の調査箇所では40°～60°でした。オーバーハング箇所は認められませんでした。斜面の地盤は植生等で見えない箇所もありましたが台地がローム層からなっており、粘性土に分類されます。表土の厚さは斜面の傾斜角度から0.5m未満と考えられます。湧水は1か所の斜面で確認されましたが、他の2か所では確認されませんでした。崩壊地は認められませんでした。以上の結果から、今回調査を行った斜面の危険度ランクは”c”に分類され、比較的危険度が低いと判断されます。

地震時における斜面被害の相対的危険度は、想定される「東京湾北部地震M7.3の場合」で飯山満・芝山地区において予想震度6弱になり、**ランクAの危険性が高い**に分類される。